

2021 年度 都市社会学 A 授業計画 (SYLLABUS)

金曜日 2 限 教室：社-101

担当 大谷 信介

T.A. 李 軒羽

SCHEDULE

- ① 4/9 Introduction (この講義の内容・テキスト) (テキスト 序章 pp1-12.)
「高校の社会科－大学の講義」「研究＝都市現実と都市理論」「研究の基礎と最先端」
「次の写真は、世界のどこの都市でしょうか?」
<都市の定義をめぐって> <都市関連年表>
- ② 4/16 都市の概念：都市を定義することは難しい (テキスト第 1 章 pp15-35.)
(サブテキスト 6 章：鈴木栄太郎が憂いていた「市町村合併政策」 pp130-155.)
「地方自治法の市の定義」「人口何万以上が都市なのか?」「都市イメージ調査」
「行政都市と自然都市」「20 もある政令指定都市」「市町村合併政策の問題点」
- ③ 4/23 都鄙論・農村との対比：日本農業の変貌と都市化の実態 (テキスト第 2 章 pp41-55.)
「都市化の進展とその背景」「産業構造の激変」
「昭和の歴史と戦後日本の地域開発の展開」「都市化・郊外化・再都市化」
- ④ 4/30 鈴木栄太郎の都市の定義：結節機能説 (テキスト第 3 章 pp57-59.pp65-77.)
「社会的交流の結節機能と都市人口」「中枢管理機能の階層構造」「都市各位説」
「学生が見た都市の最小単位：北海道美深町恩根内」
- ⑤ 5/7 鈴木栄太郎の都市理論：正常人口の正常生活の理論 (テキスト第 3 章 pp60-65.)
(サブテキスト 5 章：50 年の歳月は「都市の骨格」をどう変えてきたか pp103-117.)
「都市住民の生活行動の空間的把握」「50 年後の再調査＝銭湯・薬局・映画館利用実態調査」
「大秋聚落調査」「西目屋村バス調査」
- ⑥ 5/14 50 年前の都市状況とテクノロジー：前産業都市の議論
(サブテキスト 5 章：50 年の歳月は「都市の骨格」をどう変えてきたか pp118-129.)
「モータリゼーション・高度情報化・平均寿命」「都市の中枢管理機能」
「東京一極集中と関西の地盤沈下」
- ⑦ 5/21 ヨーロッパの都市の定義：欧州史と「城壁」の持つ意味
(サブテキスト 7 章：グローバル社会における「実証的都市研究法」の再構築 pp163-174.)
「城塞都市：カルカソンヌ(フランス)」「<リング>という道路」
「ブローデル『地中海』」「小麦と略奪」「黒沢明映画が海外で人気な理由？」
- ⑧ 5/28 ウェーバーの都市理論：都市ゲマインデと都市自治 (テキスト第 2 章 pp37-41.)
「比較都市類型論・東洋と西洋の違い」「西洋都市においてのみ資本主義が発達したのは？」
- ⑨ 6/4 日本の都市理論がヨーロッパの都市に通用しないという事実
(サブテキスト 7 章：グローバル社会における「実証的都市研究法」の再構築 pp156-163.pp174-181.)
「日本の都市に城壁がないのはどうしてか?」「中央集権と地方分権」
「都市格位説(都市序列)」「都市の対等性」「ルーヴェン市民の買物行動」「ゴロゴロ族」
- ⑩ 6/11 アメリカの都市理論の背景：アメリカの歴史と T 型フォード (テキスト第 4 章 pp79-92.)
「20 世紀初頭シカゴでなぜ都市社会学が発展したのか?」「シカゴ学派都市社会学」
「人間生態学」「社会的実験室としての都市」「同心円地帯理論」

- ⑪ 6/18 ワースのアーバニズム論とそれへの批判 (テキスト第5章 pp93-107.)
「人口の3要素と都市的生活様式」「都市のマイナス面」「新都市社会学」
- ⑫ 6/25 ネオアーバニズム論：フィッシャーの下位文化理論 (テキスト第6章 pp109-124.)
「なぜ都市に人が集まるのか」「都市のプラス面とは」「都市の文化創造性」
「ピカソが通ったマドリードの<4匹の猫>」「北カリフォルニア調査」
- ⑬ 7/2 アメリカ都市理論の日本的文脈からの解説
(参考文献1)：『現代都市住民のパーソナルネットワーク』)
「<都市的状况>と都市的人間関係」「都市化とネットワークの同質性」
「<積極的選択>と<消極的選択>」「ゆきすぎた個人主義」「選択的移住」
- ⑭ 7/9 グローバル化時代の都市理論：日本・ヨーロッパ・アメリカの都市
「都市の定義傑作撰を解説する」(テキスト第9章・巻末資料 pp171-222)
「世界の都市に共通するもの・それぞれの地域独自の特徴」「世界標準の都市理論とは？」
「鈴木理論の換骨奪胎」「都市住民の生活行動の実態把握」
<愛媛・長崎県民生活実態調査> <川崎・神戸市民生活実態調査>の意義

テキスト：大谷信介『<都市的なもの>の社会学』ミネルヴァ書房 2007年

サブテキスト：大谷信介・山下祐介・笹森秀雄編『グローバル化時代の日本都市理論
～鈴木栄太郎「都市社会学原理」を読み直す』ミネルヴァ書房 2015年
*サブテキストの講義資料分は、PDFでLUNAにアップします

参考文献：

- 1) 大谷信介『現代都市住民のパーソナルネットワーク』ミネルヴァ書房 1995年
- 2) 鈴木栄太郎『都市社会学原理』鈴木栄太郎著作集VI 未来社 1969(57)年
- 3) ブローデル,F.(浜名優美訳)『地中海 I-V』藤原書店 2004(1966)年
- 4) ウェーバー,M.(世良晃志郎訳)『都市の類型学』創文社 1964(1956)年
- 5) マンフォード,L. 1961(生田勉訳)『歴史の都市明日の都市』新潮社 1969(61)年
マンフォード,L. 1938(生田勉訳)『都市の文化』鹿島出版 1974(38)年
- 6) ワース,L. 1938(高橋勇悦訳)「生活様式としてのアーバニズム」
鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房 1965年
- 7) フィッシャー,C. S. 1982(松本康・前田尚子訳)『友人のあいだで暮らす』未来社 2002年
フィッシャー,C. S. 1975(奥田道大・広田康生訳)「アーバニズムの下位文化理論に向けて」
奥田道大編『都市の理論のために～現代都市社会学の再検討』多賀出版 1983年

授業方法：講義形式 適宜講義資料をLUNAにアップする

成績評価方法・基準： 定期試験(問題は講義内容に関する小論文試験) 80%
コメントペーパー等の提出物による平常点 20%

準備学習等についての具体的指示および他科目との連携

- *講義の前に、授業内容に関するテキスト部分・LUNAにアップする資料をよく読んで講義に参加してください。また、日頃から世界の都市に関する映像(TV・映画・ニュース)・書物・旅行パンフレット等にも関心を持つようにし、都市について考えるようにしてください
- *質問はいつでも大歓迎です、積極的に質問してください。授業に関する疑問・質問・要望等がある場合は、授業中でも、授業後にも、担当教員に伝えてください(sotani@kwansei.ac.jp)。また、T.Aの李さんにメール(fkf03862@kwansei.ac.jp)をしてもかまいません。授業に反映するよう努力します